

## Well-being 向上に寄与する身近な公園・緑地

～地域コミュニティに多面的役割を果たす公共空間について語り合おう～

日時：2025年1月31日（金）13:30-16:50

会場：日本教育会館 第三会議室・オンライン(Zoom)

参加者：124名(会場36名、オンライン88名)



このフォーラムでは、地域コミュニティにとって多面的役割を果たす公共空間として、子育てを通じた社会交流の促進、スポーツを核とした健康と福祉の向上、環境教育と自然の保全、文化と歴史の継承、防災と安全、そして経済的効果など、さまざまな観点から地域の質を高める役割を担っている公園の在り方について、「Well-being 向上に寄与する身近な公園・緑地」をテーマに語り合いました。

■開会の挨拶 CLA会長 金清 典広

■司会 CLA広報委員 小俣 智裕

## 第1部 講演 13:40-15:50 (途中10分休憩)

## ▶ スマートになりきれない都市の小さな公園と保育

田村 将理 氏 | 「途草会」代表 / World Urban Parks「Ageing, Wellbeing &amp; Parks 委員会」共同議長 / 東京科学大学・博士後期課程学生

建築理論史と景観生態学の研究の傍ら、生活に即した実践のため2022年より「途草会」を設立し、近隣保育園との連携を軸とした多世代での公園の地域活用とその方策を模索。業務保育の観点から、保育園が日常的に利用する都市の小さな公園が抱える問題と課題について講演。



田村 将理 氏

## ▶ 公園で！子どもも親も育つ「外遊び型」子育て支援事業

～合言葉は“みんなで子育て”地域コミュニティづくり～

中川 奈緒美 氏 | 特定非営利活動法人 PLAYTANK 理事長

市民活動の冒険遊び場/プレーパークをはじめ、2008年より練馬区補助事業の子育てひろば「おひさまぴよぴよ」の受託運営をスタート。練馬区内8か所の公園等で、0歳から3歳までの子どもと保護者が自由に外遊びのできる「外遊び型」の子育て支援事業を展開。子どもが自然と人と触れ合いながら主体的に遊ぶことの効果と意義について講演。



中川 奈緒美 氏

## ▶ ストリートスポーツを楽しめる well-being な公園のある街を目指して

神原 清孝 氏 | わくわくパーククリエイティブ株式会社 代表取締役社長

長居公園の指定管理者として、公園、スポーツ施設、イベント等の管理・運営を通じて、互いに尊重しあう社会的に成熟した街を目指す。「繋がり、創り育てるスケートボードパーク」をコンセプトに、公園内にスケートボードパークを設置、地域やローカルスケーターと協議を重ねながら行う管理・運営について講演。



神原 清孝 氏

## ▶ シモキタのはら広場

三島 由樹 氏 | 株式会社folk代表取締役 / ランドスケープ・デザイナー / 一般社団法人シモキタ園藝部共同代表理事 / 一般社団法人ソーシャルグリーンデザイン理事

小田急線跡地に整備された公共緑地「シモキタのはら広場」の植栽管理を担う「シモキタ園藝部」の企画、立ち上げに携わり、発足後は共同代表の一人として活動。管理事業者による維持管理ではなく、地域内外の多様な主体による「活用管理」を通じて、地域への愛着、福祉、人とのつながりをはぐくむ「みどりの自治」を目指す取り組みについて講演。



三島 由樹 氏

### ■パネリスト

田村 将理 氏  
中川 奈緒美 氏  
神原 清孝 氏  
三島 由樹 氏

### ■モデレーター

一般社団法人ランドスケープ  
コンサルタンツ協会  
広報委員長：塚原 道夫  
技術委員長：宇戸 睦雄



### ▶意見交換

#### 【参加者からの質問】

宇戸:(中川氏へ質問)「おひさまぴよぴよ」開催に関する住民の方々への周知方法はどのように行っているか。

中川:紙媒体として「おひびよ通信」を四半期に1回、春夏秋冬に発行しているが、利用者は子育て世代やその親世代などの生活者のため、Instagramでの周知が多い。また、練馬区の事業のため、区のHPでもお知らせが掲載される。紙媒体は主体ではないが、毎年0歳児が生まれるため、検診などの際に自治体から配布することが着実に届く方法だと考えている。

宇戸:口コミも大きいか。

中川:最初のきっかけは、口コミや知り合いからの紹介が多い。



参加者:(中川氏と田村氏へ質問) 夏場の公園はとても暑いが、もし屋根がある半ドーム型の吹き抜け施設があったら嬉しいか。

田村:真夏ではなかったが、公園でイベントを開催する日の朝、熱中症急アラートが出る予報になり、急遽ターポリンを設置したことがある。気候変動で夏の3か月間ほとんど外に出られないという状況が進んでいる中で、公園の標準施設として、常設の屋根ではないにしても、ターポリンを簡易的に張ることができるような設備があるとよい。6月の雨の時期から7月から10月まで外に出られない状況が起きている。これは人権に関わることである。娘は幸い園庭のある保育園に入れたが、この2年でターポリンを張るためのポールの設置が進んだ。園庭のない保育園が日常的に利用している公園、制度的に利用が前提とされている公園に設置されていないというのは、公園行政の中で標準設備として検討すべき。また、イベントをする側の実感として、雨が降ったら中止になってしまうので、当日の朝まで天気を気にしてドキドキしている。屋根や少しでも風が防げるような場所が小さくてもあると、活用の幅が大きく広がり、地域の結束も強まると考えている。

中川:木陰があったら、そちらの方がよい。木をたくさん植えていただければそちらを選びたい。常設のプレーパークも運営しているが、夏場は施設と木と木の間全てに、寒冷紗を二重にして張り巡らしている。それよりも木陰の方が風の通り方も気持ちよいし、空間的な高さもある。寒冷紗の張る高さによって居心地が全く異なる。外のままの状態を感じられるのであれば人間が作ったものを張っていただいた方が、ないよりはよいが、長い目で考えていただきたい。年間を通して活動する場所として、まず植栽を考える必要があると思う。人が集うところに木陰があればよいので、長い目で見た場合と短期的な対処は別に考えてもらいたい。

宇戸:(三島氏へ質問) シモキタ園藝部をNPO法人ではなく一般社団法人にした理由を教えてください。

三島:すごく悩んだ。勉強会を開催し、みんなでそれらの違いから学んだ。まずは手続きの簡易さに飛びついた形。体制もしっかりしていればNPOということもありえたが、少々荷が重そうということで、まずはライトに始めようという理由から。

宇戸:堆肥を2リッター500円で売っているということだが、売れるのでしょうか。関西では考えられないのですが。

三島:とてもよく売れる。実際に分析はしていないが、コンポストの目の前で野菜作りをして、実際によく育つと実感している。この堆肥を使っていると書いてもいるが、おすすめできると部員たちが口コミをしている状況。

宇戸:堆肥は色々な法的規制があると思うが対処しているか。

三島:非常に必要なポイントだった。違法にならない形で自分たちの活動をどう還元できるかを考えた結果、堆肥ではなく、土として売っている。



**参加者:**(三島氏へ質問) 人工地盤の上に樹木が植わっているが、根っこの張るスペースはどうなっているか。また樹種は何か。  
**三島:**ほぼ人工地盤で、土厚も非常に薄いところもある。構造物の基礎も埋まっているので、植栽プランニングはかなり慎重に行った。樹種は有用植物で、果樹、ハーブティーにつかえる植物を中心に、見て楽しめるというよりは使って楽しめるものを植えている。ポイントとしては、小さい状態から植える、深根性のもは植えないなどの対応をしながら、植える場所を注意深く選んだ。浅い場所に植える際はマウンドを作るなどの対応も行った。植栽プランニングは非常に難しかった。

**参加者:**(三島氏へ質問) 園芸品種ではない野草、ハーブなどが植えられているが、鳥や虫などが運ぶ種特定外来種への対策は？  
**三島:**非常に大事なポイントで、外来種、在来種問題は園藝部みんなでかなり話し合いを行った。専門家を呼び話し合い正解を探そうとしたが、現場まで起きていることをベースにその都度考えている。特定指定外来種が生えた場合は抜くことが多いが、議論した後で抜いている。答えを決めて動かないことを大事にしている。

**参加者:**(三島氏へ質問) ミツバチは西洋ミツバチか、日本ミツバチか？ハーブは農薬の使用はしているか。  
**三島:**西洋ミツバチで、初めに養蜂をやりたいと言った方の意向であった。いずれ日本ミツバチにもチャレンジするかもしれない。また、ハーブを育てている場所は区画しており、農薬は使用していない。一般の人は入れないようにしているが、犬のおしっこなどを防ぐことを目的としている。

**参加者:**(三島氏へ質問) 公共のスペースでできた作物を販売することについて、行政とはどのようなやりとりをされたか教えていただきたい。  
**三島:**シモキタのはら広場は、小田急、公園、道路の3つの区画があり、販売するものは基本的に小田急の区画でやっている。公園の活用を考えていく上では、この3つの区画のミックスが面白い状況を作っていると考えている。  
**宇戸:**人工地盤とは考えられない空間だった。分厚いところは数メートルある？  
**三島:**すべてを把握しているわけではないが、1m程度と浅めである。

**宇戸:**(神原氏への質問) スケートボードパークに関する苦情が1380件程から10件以下に減った要因のうち大きなものを3つ挙げると何か。  
**神原:**クルーと呼ばれるメンバーが、スケートボードパークの設置が決まった段階から事前に周知したこと、近隣自治会の月次会議に直接出向き、丁寧に説明、町内会に浸透していったこと。それでも苦情が出てくるので、ごまかさずにデータを提示し、あるいは直接会話して丁寧に説明してきたことがよかったのではないかと考えている。



**中川:**(神原氏への質問) 中高生を焦点に充てて公園を使っていいよという公園は多くない。中高生の声をどのように取り入れているのか。  
**神原:**スケートボードをする彼らのネットワークがあり、それにぶらさがるチームもあるので、そこから声があがってくる。それ以外の事については、プラットフォーム委員会を立ち上げており、地域の町会の方、商店街、周辺企業の方に来ていただき、地域の住民の方の声を公園の色々な面に活かしている。管理の面は非常に難しい問題があり、禁止事項のオンパレードである。子どもたちが遊ぼうと思っても何もできない状況。大阪市の公園で花火ができなかったが、市と調整し、砂場の大きな広場があり、水を持ってきたら手持ち花火ができるようにした。安心・安全面の管理と、子どもたちが自由に遊べる公園のバランスは非常に難しいと感じた。

**宇戸:**(神原氏への質問) スケートボードパークが24時間利用とのことだが、どのように管理を行っているのか。  
**神原:**24時間運営は初だと思うが、スケーターは子どもだけでなく成人も多い。仕事終わりに来る人、仕事前の早朝にやる人もいることから、そういったニーズを捉えて24時間とした。夜は色んな方が来るので、夜6時から朝6時までは警備員をつけている。公園オープン当初は500円/年だったが、電気代の値上がりなどもあり今は1000円/年で、登録すれば誰でもいつでも滑れるパークとなっている。

**塚原:**(神原氏への質問) スケートボードパークの建設費は誰が負担したのか。会社で負担したならば採算はどのような状況か、差支えない範囲で教えていただければ。  
**神原:**スケボーパークは会社負担で建設した。公園には他にも施設があり、一個ずつ見ると赤字のものがたくさんあるが、スタジアムで収益を上げており、全体でバランスを取っている状況である。  
**塚原:**民間企業のノウハウで解決している良い事例だと感じた。

**宇戸:**皆さんの講演を聞き、公園をうまく使っていただいている印象だが、保育園の公園利用という観点だと、かなり特化したものが必要で、園庭的な作り方をしないと対応が難しいと感じた。本日の4人の講演者同士でも、出来る部分と出来ない部分、相反する部分など違いがあると思う。他の講演者の方へ質問があれば。



**田村:**本日扱った内容は、一番小さい規模でお金もない公園を、一番弱い人間たちがどう使うかという視点のもの。面積ベースで管理費が決まってくるため、基本的に作りっぱなし、手も入れられないジレンマを抱える公園で、業務保育という強い責任があり、あらゆるものが危険になる状況の中で公園を毎日使うという、最前線みたいなものを皆さんに共有したいと思いで話した。他の講演者の方がよい事例をお話されると思い、そうではない公園もあって、そこは正にコンサルタンツ協会が扱っている法規だとか行政との関わりの中で解決すべき問題であることを伝えたかった。公園には緑以外のたくさんの物理的設えがあるので、緑から少し視点を外してもよいのではと考えている。木は公園のど真ん中に植えた方が本来は楽しいと考えているが、いつからか木は端っこに植えられて、不自然な剪定になっているので、今の管理設計されている方の考えも伺いたい。シモキタはエッジがきれいだと感じていて、多少草があばれてもまとまりがある。三島氏にそのあたりの設計論を伺いたい。スケートボードパークについては未知の領域だが、運動したいティーンエージャーが主役になってものを作っていくといのはすごく大事な話で、管理設計の中心に食い込んでくるのは面白いと感じた。

**三島:**よく見ていただいていて感激。エッジをきれいにするというのは園藝部の中ですごく大事にされていて、逆に言うと、エッジ以外はきれいにしていなくても許せるようなメリハリのある環境にしている。植物の植え方についても、植物がのびのびと育つような環境となるようにしている。その緑陰で楽しく過ごし、活用できる空間となるよう活動をしている。

**中川:**(三島氏へ質問) たくさんの地域の方が関わって、やりたいことをやっていいよ、という組織がとても魅力的。施設管理の運営費をいただいている中で、多くの方のやりたいことを、どのように決定しているのか伺いたい。

**三島:**部員になれば企画は誰もができるようになっており、月に1回のはら会議に出せば基本的に通るが、予算は園藝部からは出していない。園藝部として予算を出した方がいいものもあるので、その際は皆で検討する。植栽管理の企画については、園藝学校を出た人が企画できる権利があり、月1回の植栽管理のリーダーミーティングで企画を出してもらう。

**神原:**長居公園でも緑の再考プロジェクトを立ち上げていて、三島氏のお話はモデルケースだと感じている。一番苦労したことは何か。

**三島:**立ち上げ時に議論をきちんと行っていくというのを決めた。宮本常一という民俗学者が、村の意思決定は投票ではなくずっと議論していくものだという事を言っており、その考えに賛同し、園藝部でも多数決はやっていない。会議に参加していない人がいたら議事録を読んでもらい、異議があれば言えるようにした。とても時間がかかったが、物事を皆で前に進めていくといことはそういうことなのだと学んだ時でもあった。

**三島:**(田村氏へ質問) 田村氏の取り組みは非常に興味深い。非常に小さな公園、予算もない、小さなこどもが使う公園で課題が多いが、可能性もあるという話だったが、田村氏から行政・管理者へリクエストがあれば。また、研究者・実践者として変えていきたいことは何か。

**田村:**行政への要望は実際に出していて、拒否される事も多いが、安全性確保のために花壇のレンガの角を削りたいなど、聞けば許可してもらえることもある。それらリクエストは、毎日公園を使っている方が一番持っており、砂場はいらない、出入口を閉められるようにしてもらいたいなど、公共性に反することも多いが、行政に直接聞いて確認している。保育園と行政の間に私が中間支援組織的な立場で入ることで、少しずつ見えてきたことがある。それらを全体的な調査にして、まとまったら皆さんに意見を聞き、行政にも出したいと考えている。小公園の利用頻度が高い人達に声を与えたいというのが今の私の立場。可能であれば小池知事、こども家庭庁に、公園に予算を回してほしいとリクエストしたい。中川氏のおっしゃるように、公園にいつも誰かがいるということが実現するだけで、その公園の使い方が劇的に変わる。それを小公園で実現するためのフレームがないので、社会実験を少しずつやりたいと考えている。



**塚原:**本日は、4人の先生方大変貴重なご経験を伺い、学ぶ事が多かったので、他の事業にも役立てていきたいと考えている。